

第 1 回 授業研究会

研究テーマ

自ら学ぶ力と豊かな心を育てる情報教育をめざして
～情報活用能力を育てる授業デザイン～

6 年 国語科

相手の意図を聞き取り、自分の主張を伝えよう

「学級討論会をしよう」



平成 26 年 7 月 2 日 (水) 5 校時 第 6 学年 2 組教室

授業者 川崎市立梶ヶ谷小学校 禿 信成 教諭

指導・講評 川崎市総合教育センター 情報・視聴覚センター

栃木 達也 指導主事

13:15

13:40

14:25

14:40

16:05

受付 (体育館)	授業公開 6 年 2 組教室	移動	全体会 研究協議 (体育館)	指導講評
-------------	-------------------	----	----------------------	------

(書く)集めた情報を整理し、関連づけて、自分の考えをまとめる。
(話す・聞く)考え方のにているところやちがうところから、討論を深める。

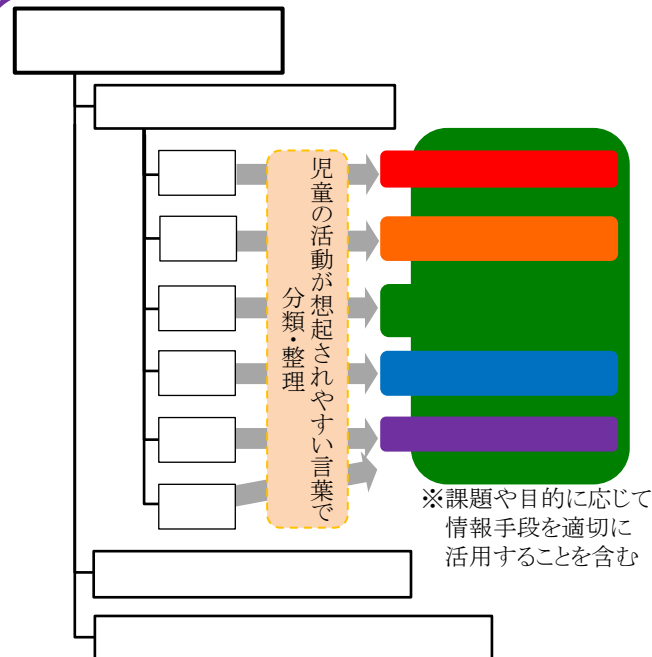
(書く)理由づけを明確にして説明する。

<現在の子ども像>

(書く)効果的な構成や材料の配置、記述を考えて、編集する。

<今回の単元でめざす子ども像>

(話す・聞く)相手の意図を聞き取り、自分の主張を伝える。



☆今回の授業のポイント☆

第6学年2組 国語科学習指導案

指導者 川崎市立梶ヶ谷小学校 禿 信成

1. 日時・場所 平成26年 7月2日(水) 6年2組教室
2. 単元名 相手の意図を聞き取り、自分の主張を伝えよう 『学級討論会をしよう』
3. 単元の目標

◎討論会の話題に沿って、話し手の意図をとらえながら聞き、自分の考えと比べるなどして考えをまとめることができる。

◎互いの立場や意図をはっきりさせながら、計画的に話し合うことができる。

○討論会における言葉の使い方などについて関心をもつことができる。

4. 評価規準

国語への 関心・意欲・態度	話す・聞く能力	言語についての 知識・理解・技能
○討論の形式や話題に興味をもち、積極的に参加しようとしている。	○話題に対する自分の考え方、感じ方を表している。(1)ア ○討論会の順序や進め方の調整、対立の調整が必要なことを理解し、話し合っている。 ○自分の主張・根拠と対比しながら聞いている。	○語感や言葉の使い方を意識して話している。 ○場に応じた丁寧な言葉遣いで話している。

5. 単元と児童

(1) 単元について

本単元は、自分の主張したいことを決め、根拠となる意見や資料を示して自分たちが主張したいことを述べ合う。また、討論を聞くという立場で参加するディベート式の学習である。ディベートは立場の違いが肯定か否定かとはっきりしているため、攻撃的な議論を生みやすい。そのような場を経験することで、感情を害するような言動を慎み、相手の言動を落ち着いて把握しようとする態度も育てるように配慮したい。また討論の目的は相手を打ち負かすということではなく、中立の立場の人に納得してもらおうことが最大の目的であるということをしっかり押さえていきたい。

(2) 児童について

昨年度『自分の考えをまとめて、討論をしよう』『豊かな言葉の使い手になるためには』の学習では、自分が豊かな言葉の使い手だと思う人物について調べたことや考えたことについて討論をする活動を経験している。この経験を踏まえ、ここでは対立する立場の論点や争点をはっきりとさせながら、ルールに沿って討論する力の獲得を旨としたい。また、自分の考えや思いを表現することが苦手な子も多いため、5月の「生き物はつながりの中に」では段落ごとの筆者の考えを要約することを課題として、グループで意見交流をし、一つにまとめたものをホワイトボードを使って発表する学習を行ってきた。本単元の「話すこと・聞くこと」をねらいにおいた討論会の学習は、自分の考えや理由をみんなの前で話すことで、友だちの意見にも耳を傾け、それによって自分の考えを見直したり深めたりすることができるようになっていってほしいと願う。

6. 本単元で育てたい情報活用の実践力

【つたえる力】 対立する立場の論点や争点をはっきりとさせながら、ルールに則って、相手の意図を聞き取り、自分の主張を伝える。

7. 指導計画 全9時間

次	時	評価規準	主な学習活動	学習活動ごとの育てたい【情報活用の実践力】 ☆手立て
1	1	(関) 音声資料を聞き、討論会の進め方を理解し、よい主張の仕方、質問の仕方に気づいている。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 討論会のねらいや準備、役割分担、進め方について理解し、学習の見通しをもつ。 ・ 音声資料の活動モデルを聞き、討論会の進め方を確かめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ☆教材文を読み、討論会のねらいや準備になどについて確かめる。 ☆学習の進め方(学習計画)を示す。 ☆教科書付属のCDにある学級討論会のモデルを聞きながら以下の点に気づけるようにノートにメモを取るようにする。 ○討論会の流れ ○3者の立場、発言の仕方、聞き方、質問の仕方
2	2	(話・聞) 対立する二つの立場に立って、どちらの考えももっている。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 相手を説得する材料を集める。 ①話題とそれぞれの立場を確認する。 ②本番での役割分担をする。 ③自分たちの主張を文章化する(原案) ④根拠としたいものを挙げ、調べる。 ⑤予想される反論を話し合う。 ⑥⑤に対する反論を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ☆学級を3つのグループ(立場)に分ける(肯定・否定・聞く)。 教科書での例示を参考にし、前提が明確で肯定・否定どちらの立場も互角の説得材料が考えられるもの、児童が具体的に考えをもてそうなものを討論会の話題として取り上げるようにする。予定される討論会の数だけの話題に絞る。 【あつめる力】 課題に沿って、客観的な誰もが受け入れられる説得材料を集める。 ☆グループメンバー全員が課題を共有しながら、分担して資料を集められるようにする。 ☆自主学习ノートでの取り組みを生かして、意欲を継続して調べられるようにする。
	3	(話・聞) 話題に対して、資料や情報を集め、主張に対する確かな根拠ももっている。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学級討論会の準備をする。 ①集めた材料を箇条書きにする。 ②意見を整理して文章にする。(初めの主張・最後の主張) ③予想される相手の反論に対する答えをまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> 【くみだてる力】 課題に沿って主張内容の構成を決め、「根拠となる資料」を使うタイミングを考える。 ☆強調したいことは具体物や具体的な経験を述べて説得力を高めた主張を考えられるようにする。 ☆主張がより説得力のあるものになるよう、次の観点で話し合うようにする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;"> <ul style="list-style-type: none"> ○理由と主張の関係 ○使うとよい材料 ○組み立て方 ○表現で工夫するところ ○想定される質問と答え </div> <ul style="list-style-type: none"> ☆グループでの話し合いでは各自が書いたものを持ちよってまとめられるようにする。
	4	(話・聞) 討論会の形式に沿って、討論をしている。 (話・聞) 発言者の主張と根拠を、自分の意見と比べながら聞いている。 (話・聞) 討論会の意義と、よりよい討論の聞き方や主張のしかたを理解している。 (関) 討論の形式や話題に興味をもち、積極的に参加しようとしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・ グループに分かれて、1回目の学級討論会を行う。 討論会をふりかえり、気がついたことを共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> 【つたえる力】 互いの立場や意図をはっきりさせながら、討論会の形式に沿って話し合う。 【つたえる力】 根拠となる事実や資料を提示しながら自分の主張が伝わるように発表したり、討論の筋道に沿って相手の意見を聞き取ったりする。
	5	※第2時に同じ	<ul style="list-style-type: none"> ・ グループ(立場)とテーマをかえて、相手を説得する材料を集める。 	<ul style="list-style-type: none"> ☆討論をするときに意識すべきことをおさえる(教科書P47「たいせつ」) <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;"> <ul style="list-style-type: none"> ○議論の筋道に沿って発言する。 ○説得力のある話し方を工夫する。(意見を先に、理由を後に話す。)(体験や具体例を入れて話す。) ○相手の主張や、質問に対する答えをよく聞き、それをふまえて発言する。 ○互いの立場の、一番の違いは何かを考えながら聞く。 </div>
	⑥	※第3時に同じ	<ul style="list-style-type: none"> ・ グループ(立場)とテーマをかえて、2・3回目の学級討論会の準備を行う。 	
	7	※第4時に同じ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2回目の学級討論会を行う。 	
	8	※第4時に同じ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 3回目の学級討論会を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ☆討論会に向けて用意する情報機器等：50インチTV・教材提示装置・デジタルカメラ・パソコンなど
3	9	(言) 言葉の使い方に関する感覚について関心を持ち、伝えにくいことを伝えるとき、どのようなことに気をつければよいかを理解している。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 伝えにくいことをどのように伝えるかについて考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 【つたえる力】 相手に自分の意図が正確に伝わり、冷静に受けとめてもらえるように、言葉や表現を選んで伝える。 ☆自分の経験と重ねて教材文を読み、自分ならどう言うか場面を想定して2人組で実際に行ってみて、感想を交流するようにする。

8. 本時の指導（5／9）

- (1) 本時の目標 学級討論会の準備をすることができる。
- (2) 本時で育てたい情報活用の実践力 **【くみたてる力】** 課題に沿って主張内容の構成を決め、「根拠となる資料」を使うタイミングを考える。
- (3) 本時の展開

主な学習活動	学習活動ごとの育てたい【情報活用の実践力】 ☆手立て
<p>1. 本時のめあてを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; text-align: center; margin: 10px auto; width: 80%;"> <p>学級討論会にむけて作戦会議を開こう。</p> </div> <p style="text-align: center;">※討論会テーマ 2 回目の討論会のテーマ「暮らすなら沖縄県より北海道がいい。」 3 回目の討論会のテーマ「6 年生になったら弁当を作ってくるべきである。」</p> <p>作戦会議の内容について</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 役割分担をする。 ② 調べてきたことをお互いに確認する <p>2. グループごとに相談して討論会の準備をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ③ 集めた材料を箇条書きにする。 ④ 意見を整理して文章にする。(初めの主張・最後の主張) ⑤ 予想される相手の反論に対する答えをまとめる。 <p>3. 次時の内容を確認し、本時のふり返しを行う。</p>	<p>【くみたてる力】 課題に沿って主張内容の構成を決め、「根拠となる資料」を使うタイミングを考える。</p> <p>☆強調したいことは具体物や具体的な経験を述べて説得力を高めた主張を考えられるようにする。</p> <p>☆主張がより説得力のあるものになるよう、次の観点で話し合うようにする。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>○理由と主張の関係 ○使うとよい材料 ○組み立て方</p> <p>○表現で工夫するところ ○想定される質問と答え</p> <p>○質問したいこと</p> </div> <p>☆グループでの話し合いでは各自が書いたものを持ちよってホワイトボード等にまとめられるようにする。</p> <p>☆意欲を継続するためにも、説得材料は引き続き調べてくることを伝え、次時まで自主学習ノートにまとめてくるようにする。</p>

評価規準 (話・聞) 話題に対して、資料や情報を集め、主張や質問に対する確かな根拠をもっている。

9. 手立て

(1) 本授業に向けての取り組みについて

- ・グループを10人1組の3グループ編成とした。
- ・どのグループも3者（肯定・否定・聞く）の立場で討論会に参加できるようにするために、以下の日程で組んだ。また、調べ学習の前にグループごとに集まって相談する時間を取り入れた。

	Aグループ	Bグループ	Cグループ
作戦1	動物園の動物は幸せ/肯定	動物園の動物は幸せ/否定	暮らすなら沖縄県より北海道がよい/肯定
作戦2			
1回目討論会	①「動物園の動物は幸せである」		聞く
作戦1	暮らすなら沖縄県より北海道がよい/否定	6年生になったらお弁当を作るべき/肯定	6年生になったらお弁当を作るべき/否定
作戦2			
2回目討論会	②「暮らすなら沖縄県より北海道がよい」	聞く	②「暮らすなら沖縄県より北海道がよい」
3回目討論会	聞く	③「6年生になったらお弁当を作ってくるべき」	

(2) 討論会の流れを以下のように設定した。1グループの人数が10人ということで⑤の自由討論の場を取り入れ多くの子が意見を言えるようにした。

- | | | |
|------------|--------------|------------|
| ①司会から | ②初めの主張（肯定） | ③初めの主張（否定） |
| ④質問（聞く側） | ⑤自由討論 | ⑥最後の主張（肯定） |
| ⑦最後の主張（否定） | ⑧まとめの意見（聞く側） | |

(3) ヒントカードの作成（3者の立場）

それぞれの立場での進行に関する主なせりふを書いたヒントカードを事前につくったことでそれぞれの役割になった児童が安心して討論会に参加できるようにした。

(4) 日常的な取り組みについて

情報活用の実践力を育てるために

- ・朝の会での日直のプレゼン

1枚の写真を準備し、それについてプレゼンすることで自分の思いや考えを伝える。一番伝えたいことをしっかりと決めることでそれを相手に分かりやすく話すことに指導の重点を置いた。

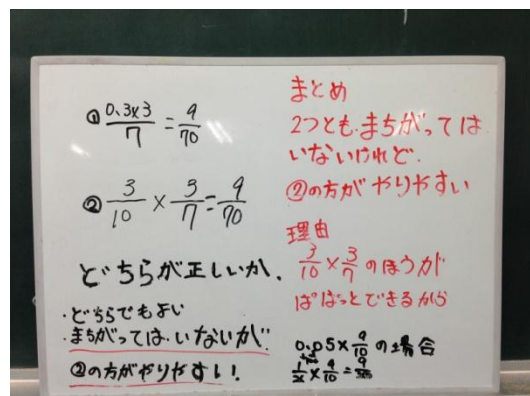
聞いている側の質問だけではなく、プレゼンターも質問するなど相互に聞きあいの活動が見られてきた。また、プレゼンターは予想される質問をあらかじめ想定するなど発展的な取り組みも見られるようになってきた。家庭において保護者にプレゼンをして質問を考えてきたり、写真を撮った場所、時間やその状況について詳しく調べてきたりする子が多く見られるようになった。



・ホワイトボードの活用

A2サイズ(420×594)の大きめのものを班の数だけ用意し、日常的に使ってきた。算数では、自分の考えはノートに書き、班で考えるときにノートを持ち寄ってホワイトボードに書きこみ、それをみんなに発表する。自分の意見を伝えるだけでなく、人の意見と比べることが視覚的にも容易にできるようになった。また、学年の実行委員会などに自ら持っていき、そこで話し合われたことを書き、学級で伝える際に役立てている児童の姿も見られるようになった。

ホワイトボードの裏にはプレゼンや話をする際に気をつけたいことを書いた紙を貼ったことで、共通の意識をもって人に伝えることができるよう



になってきた。

また左の写真のように譜面台にホワイトボードを乗せて発表するなど児童自ら工夫するようになった。

・ICT機器の活用

50インチテレビや教材提示装置を使うことで、課題の提示や考えの焦点化ができるようになった。また教材提示装置をワイヤレスのものを使うことで自分たちの場所ですぐに提示できる。その他にもデジタルカメラを使って資料の写真を撮ってそれをテレビに映し出すことで考えの根拠として提示するなどの活用も図ってきた。